



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

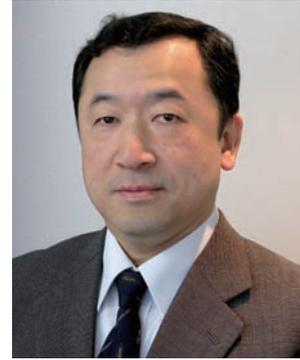
第57号

平成25年1月



巻 頭 言

会長 渡 辺 雄 幸



新春を迎え、会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととご拝察申し上げます。また被災された地域の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。あらためてお見舞いを申し上げますとともに、ご支援いただきました皆様には、御礼申し上げます。今後とも同窓会として少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。

昨年は、ロンドンオリンピックにおける日本人の活躍、iPS細胞で中山教授がノーベル賞受賞など、明るい話題もありましたが、先の見えない経済不安、社会保障制度を棚上げした消費税増税、韓国や中国との領土問題など、なんとなく閉塞感のある一年であった様な気がします。期待された民主党政権は歴史的な敗北に終わり、昨年末には新たに自民党安倍政権が誕生しましたが、また期待を裏切らないように頑張っていきたいと思っております。

一方、医療界においては、4月の診療報酬・介護報酬同時改定が行われました。社会保障と税の一体改革の実現に向けた第一歩であり、医療・介護サービス提供体制改革として、入院から在宅へ、医療から介護への流れを一層強化したものでありました。診療報酬としては全く納得がいくものではありませんが、基本的な理念は十分うなずける内容であったように思います。人口の高齢化によって、複数の疾病を持つ老人が増え、また認知症や介護を必要とする人が増加し、医療・介護を支える人的資源はますます足りなくなっていくことが予想されます。また、死亡者総数が増加し、病院で亡くなることがますます困難になりつつある現

状で、どこで終末期を迎えたらいいのでしょうか。安心して、人生の最期を迎えるためにはどうしたらいいのでしょうか。日本老年病学会が、胃瘻などの人工栄養中止を可能にする声明を発表しましたが、終末期医療の重要性を日々感じています。

昨年秋に、私立医科大学同窓会連絡会全国会が開催されました。この連絡会は、各大学の同窓会が親睦を深め、お互いの情報を交換し、ともに発展していくという趣旨であると理解しております。近年、私学の立場から、積極的に意見を集約して発信しようとの意見が出されていきました。今後各校の意見がまとめられる予定です。現時点では、我が同窓会は親睦団体であり、会則にあるように、会員相互の親睦と福利厚生、母校の発展に寄与することであり、積極的に自分たちの意見を主張していく団体ではないと考えております。

さて、大学祭が保健医療学部と合同で開催されるようになってから、日高キャンパスで行われています。昨年秋にも観に行ってきましたが、まだ観たことがない方は是非行ってみてください。私たちの後輩が、医療系総合大学として、確実に未来に羽ばたいていくような息吹きを感じるのは、私だけではないと思います。また今後もいろいろな場を通し、在学生と意見を交換して、同窓会をアピールしていきたいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆様には、ご健康に留意され、ますますのご発展を祈願しております。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。